

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成15年
4月号

毎月23日発行
通巻392号

(題字 矢追日聖)

★発行日 平成15年4月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷製
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★振替口座 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



葛城山・二上山の見える、當麻の里の春 生駒市 大津美代子さん絵

第14回大倭会文化講演会

日本人の努力のかたち

於 大倭紫陽花邑拝殿 平成14(2002)年11月10日

講師 鶴見俊輔氏



一九〇五年の転換

どうも、

鶴見俊輔で
す。一つだ
け心配なの
は、声が届
くかどうか
なんです

よ。聞こえますか。聞こえていない時
には、いつでも手を上げてください。私
は同じことを繰り返しますから。大体、
話の筋は書いてあるので、中断されても
元に戻れます。

「日本人の努力のかたち」というお話
をしたいと思うんです。

私は八十歳なんですが、だんだんに古
いことがわかってくる感じがあるんで
す。それは不思議なんです。四歳五歳
の子どもの時に、道で会った、その時七
十、八十、九十歳の人たちの仕草を覚え
ているんですね。三つ四つの子どもで
すから、言葉は覚えていないですよ。言葉
はどんどん変わっていきますから、もとの
ことは覚えてないんです。だけど、何
となく、仕草とか物を見るまなざしとか
いうものは、何か戻ってきているんで
すね。自分が衰えてゆくにしがたって、そ
れがもつと鮮やかに戻ってくるんです。
で、私が今見えるのは、だいたい一八五
三年ぐらいから二〇〇二年現在までで、
それが私の中に入っている年月なんです。
一八五三年っていうのは黒船が来た時
なんです。ですから、だいたい黒船が

来た時にどう受け止めたのかというあたりから、百五十年足らずが自分の中に入っているわけです。それで、この百五十年の「日本人の努力の力」が、何となくわかるような気がするんです。大きく言って、その「努力の力」は一九〇五年で変わったと思うんです。

一九〇五年に何が起こったかという点、それは日露戦争の終わりなんです。一八五三年から一九〇五年までが、「努力の力」として、だいたいの一つのまとまりがあるような気がするんです。ヨーロッパに追いつこうと思つて努力していたんです。そして実は、ロシアに負けなかったというのは、もう大変なことなんです。というのは、この前の二百年ぐらいを考えてみても、ナポレオンはロシアに負けた。で、その後、ヒットラーもロシアに負けたんです。ところが、日本は児玉源太郎が指揮を執つたわけですが、ロシアに負けなかった。負けなかったということだけでも大変なことなんです。一八五三年には、ヨーロッパ諸国に比べてみても、隣りの中国に比べても、貧弱な武力の小さい国だったんですからね。それが、何とか努力してロシアに負けなかったところまで来た。

ところが、大変な犠牲を払つたうえで、政府も一生懸命やって、ロシアに負けなかった。ただでなく、勝つたつていう話になつてしまった。犠牲を払つたその国民の側から言つたら、ロシアに勝つた勝つたつて話になつて、ここでもうすれ違いですね。錯覚を起こしてしまつた。政府も国民も両方ともですね、錯覚のボールの取り合いをやつて

いるんです。ここで変わるんです。それで、一九〇五年に初めて大きな民衆運動が起こるんですね。これ、日比谷焼き討ちで、日比谷にある公園なんか焼き討ちして、政府に抗議を

するんです。その主旨がもつと戦争やれつて言うんです。止めろと言うのではないんです。賠償金の取り方も少ない、もつと賠償金を取つて、もつと土地を取れと言うんです。もつと戦争やつたら、もちろん負けますよ、当たり前のことです。だけど、政府が十分に本當のことを言つてない結果がこういうことになつちやつたんですね。大変な暴動が起こるんです。その暴動はいつたん鎮められるんですけれども、暴動の気運つていうのはずっと続くんです。一九〇五年からいつまで続くかと言うと、今も続いていますよ。今もその流れの、「かたち」の中にいるんです。

暴動は鎮まつたけれども、その後どうなつたかと言うと、日本はヨーロッパ諸国に比べて、世界の列強になつた。五大国、もう少しすると今度は三大国。もう少しすると、今度はアメリカと覇を争うつて言うんですから、大変なことですね。それで、大負けに負けるんですが、負けても気がつかないんです。どうして負けたかつていうのを反省する記録を作らないんですから。全然反省録がないんです。

ヨーロッパのメガネ

それで、アメリカからマッカーサーが乗り込んで来るんですけど、マッカーサーつていうのは別にアメリカの最大の権力者じゃないですよ。雇われマダムなんです。長くいれば、首になるんです。実際、首になつた。だから、日本の中にある力を利用して支配体制を作るんですね。指導者の養成方法としては、全く前と同じにするんです。つまり、天皇制を残して、文部省を残して、そして指導者養成の場所としての東京帝国大学を残すんです。これは、三つともアメリカにないものなんです。アメリカの言うとおりにいうんじゃない

んです。三つともアメリカにないものを残して、指導者の養成は敗戦前と同じ。

それで戦後が始まるんですが、戦前と一つ違つたことがありますね。戦争が終わるまではね、東大出の人つてのは、官僚ですつと上がつてくると、賄賂取らないんです。なぜかつて言うつと、じいつとしてたら、高い身分まで上がつて、賄賂なんか取らなくても老後まで保証されるんです。死ぬまで。健康にさえ注意していれば。

だけど、戦後はいろいろなことがあつて、東大出て、かなり高い官僚になつても、大臣になつても、次官になつても、銀行の頭取になつても、賄賂を取るようになったんです。取るとテレビつていうのがあつて、暴かれるでしょ。すると、「申し訳ありませんでした」つて謝るんですよ。皆さん、何度も見ておられるでしょう。あれは、戦前と違う。まあ、私が戦前と違うと思つてはあれぐらいです。その他の領域では戦前と同じやり方がずうつと続いているんです。でも、しかし、同じやり方が続いているつてことがわかつてないんです。

違いはどこから起こつたかという点、一九〇五年です。一九〇四年は違いますよ。一九〇四年は、日露戦争が始まる時ですから。その年には、「この戦争はやつてはいけない」つていう非戦論がいろいろな仕方で起こつていっているんです。非戦論が、キリスト教からも、それから社会民主党とか、いろいろなところから起こつていっているんです。民衆の中に出てそれを言つていっているんです。内村鑑三、石川三四郎、堺枯川とか、木下尚江、幸徳秋水、皆これ、流派違うんです。彼らが出てきて、戦争は止めた方がいいと言つた。片山潜もそうです。そういうことは一九〇五年以降は全くないんです。つまり、大変な変わり方が起こつた。でも、

政府はそれを捕まえて牢屋に放り込むことをしないんですよ。政府の方も、みんなが自由に喋ることは任せていたんですよ。それだけ一九〇四年までの政府の方が、器量が大きかったですよ。それが一九〇五年でがらりと変わります。そして、その後は二〇〇二年現在まで九十七年間、ずっと続く。もっと続くと思います。もっともっと続く。

その「努力のかたち」がね、一九〇五年から大体同じなんです。また、ヨーロッパを追いかけていて、まず、イギリスのようになりたいたい、しばらくすると今度はドイツのようになりたいたい、になるわけです。ヨーロッパのメガネを借りて見るんです。その始まりの明治維新は世界史の中で既に大変大きな、独創的なことだったんです。けれど、ヨーロッパのメガネをかけて見ているから、自分たちのやってきたことは何かということが見えなくなっちゃっているんですよ。

だから、大学へ行つて、そこで、「イギリスのクロムウエルの革命に比べて日本の明治維新は不徹底だった」、「フランス大革命に比べて明治維新の変革は不徹底だった」となるわけです。この言い方っていうのはもう、大学出というのはいしよがないね。戦後も続いてますよ。「アメリカの日本改革は不徹底だ」、と。何言ってるんですか。自分たちで戦前まで何をやってたんですか。というのは、今度は別の問題ですけど。

一九〇五年の場合には、一八五三年から自分たちがやってきたことは、偉大なことなんだけれど、それがわかなくなっちゃったんですよ。ヨーロッパのメガネをかけてるから。ずうっとそれが続くんです。全部、イギリス、フランス、ドイツのやり方に当てはめてやるんです。東大出て官僚になった人はそういうふうに考えたんですよ。

これは表道ですが、裏口の方から見ても、銅貨の裏表でかなり似ているんですよ。

先生が感心したこと

その「かたち」はどういうのかと言うと、明治六年、一八七三年から学校ができたでしょ。で、一年生より二年生ができる——これは相当疑わしいですよ。二年生より三年生ができる。小学生より中学生ができて、高等学校の生徒ができて、大学生ができる。で、大学はピラミッド状になってますから、東京帝大が一番できる。そういうふうな、頭に入っちゃうんですよ。

そうすると、一年生で入った子どもが一人いて、数学の時間だとして、まじめに「先生、その問題自分で考えたんですか？」と聞いたら、先生は何で答えますか。「先生が知ってる答えが唯一つ正しいと、どうしてわかるんですか？」と聞かれたら、これ、相当困りますよ。一年生の最初の時間から妨害されて。なぜ答えられないかって言うと、先生に答えられるだけの知力と用意がないからなんです。非常に困る。「おまえは何でことを言うんだ、馬鹿野郎、ボカーン」って殴るのが当たり前でしょうねえ。これは暴力による解決であつて、知力による解決ではありませんよ。

全然別のやり方をとる人も、一億人の日本人の中に、何百万の先生の中にはいた。これ実話ですよ。小学校に入った時に、最初の時間が算数だったんですよ。先生がみんなに紙を配った。その頃、白板ってないんですよ。黒板に白墨でこう、丸を描いた。「同じ丸をみなさん描いてごらんさい」と言つた。そうしたら、ぐるっと描いて、ハイハイと手を上げるんです。こういう時にね、一番最初に手を上げる人が一番になるんですよ。二年生、三年生、中学生になつても、高等学校の

生徒になつても。この最初に手を上げるっていう癖がいつちやう人がずつと一番でいくんですよ。そして、東大一番の銀時計貰うんですよ。これは、先生の心の中にある唯一つの答えっていうのを、念写みたいにしてみたらと当てられる人なんです。相当の能力ですよ（笑）。でも、この能力は知的能力じゃないですよ。

学者犬の実験を見ると、331足す332なんて言うのと、663とか犬が答える。犬は、先生つまり「手品師」が見てるから、数がある中の6とか、ぴたつとそれをくわえてくるんですよ。複雑な計算でも、答えをばつと出しちゃうんです。六歳で小学校に入った時はまだ動物に近いですから、そういう直観力を持っている子どもがいるんですよ。それが一番にばつと手を上げる。そうやって、どんだんどんどんいくんだけれども、そうじゃない子どももいるんですよ。

それで、さきほどの先生が、ハイハイと手を上げていて、一人だけ手を上げない生徒がいたので、そこところへ行くんですよ。そして、じつと見ていてね、フーンと感心していたつて言うんですよ。その四十二人の生徒の中で、六十歳を超えて定年になった人の回想記の中にあるんですよ。「あの時先生はフーンと何を感心していたんだろうか」と。そこには重大な問題があるんですよ。それを、定年になってから考える。これは面白い人ですよ。その先生はその子どもが仕事終わるまで待つていた。で、紙を取り上げてね、「みなさん、何々君はこういう答えを書きました」。そうしたらそれは、ベタで黒塗りしてあつて白抜き。だから、時間がかかるの当たり前なんです。確かに「黒板に描いてあるのと同じものを書いてください」と言つたから、そつちの方が正確ですよ。もしその時に、「君だめじゃないの、もつと

早くやんなきゃ」なんて言ったら、一年生で最初の時間、傷つきますよ、そりゃ。先生は、フーンと言って、感心して黙って見てた。

その、定年になってゆっくり考える時間のあった元小学生は、あの時フーンと何を先生は感心していたのだろうか考えた。その彼が、六十年ゆつくり人生を味わってから出した答えはね、抽象っていうのはいろいろあるもんだな、ということ。先生は考えていたと思つた。だから、同じものを考えて描いてごらんと言つた丸にも、いろんな抽象の道があつて、ベタ塗り白抜きも一つの抽象だった。先生は一つの問題を出しているつもりだった。先生は一つの問題を出しているつもりだ。自分の出している問題そのものが抽象ですから、いくつもの問題になつていくんです。その答えもまた、さらにいくつもの答えになつてくるんです。そのことをその時、ぱつと気がついたんです。で、フーンと言つて感心して見ていた。

別の条件反射をつくる

だから、遅れている子どもを大切にしないといけないとか、知恵遅れの子どもの大切にしなきゃいけないとか、傷つけちゃいけないとか、そういうことじゃないんですよ。まさに、まさに数学そのものの問題がそこにあつたからなんです。そういう先生も、何百万人のうちにはいたんです。何で知つてるかと言うと、私がいた小学校の少し前の時代にいた先生だからです。

そういうふうな考えて、学校の教育を考えるんじゃないかと、先生が問題を出し、問題には唯一一つの答えがあり、それが唯一の正しい答えである。それを、ぱつぱつと直感によつて当てる技術が学校になつてしまつていく。小学校、中学校、高等学校と。今もさらにそこらへんにあるじゃないで

すか、マルバツで。

京都新聞で、京大の医学部の教授と、それから数カ月おいて阪大の医学部の教授と、同じようなことを書いていたんだ。それはね、一年生に入った学生に、紙を配つてね、「条件反射とは何か」書いてくつて言つたら、書けなかつたんです。京大医学部も、阪大医学部も入るの難しいんですよ。でも、ずつとマルバツでテストされていたからね、条件反射とは何かつていうのを、自由に一時間以内で書くということができる。自由になつたんですよ。

もしその問題がね、「条件反射について、理論を作つた人は誰か。ワトソン、バプロフ、エジソン」なんて書いてあつたらね、ぱつと、それはバプロフですよ。答えは、バプロフ。そして、「国籍は何か。ロシア人、イギリス人、フランス人」つて書いてあればロシア人です、これはね。もうそれは、頭が条件反射になつちゃつてるんですよ。ところが、重大な局面に対して働く知恵つて、そういうものじゃないですよ。

私が非常に親しくしていた加太こうじさんは、小学校だけしか出てません。彼は、弟が牢屋に入つたから、自分のところにも特高が来そうな気が

大倭会へのおきそい

～あなたの心に紫陽花を！～

(目的) 第3条 この会は、大倭紫陽花邑の基である「みんな仲良く」を基本に、相互扶助の社会の実現を願つて行動すると共に、会員相互の親睦をはかります。

(事業) 第4条 この会は、前条の目的を達成するため次の事業を行います。

- (1) 研修会、講演会などを開催します。
- (2) 機関紙、パンフレットなどを刊行します。
- (3) 社会福祉事業、医療事業、教育事業、国際文化交流事業など公益事業を推進、援助します。
- (4) その他必要な事業を行います。

(会費) 第10条 この会の会費は、年額（4月～翌年3月迄）とし、次の通りとします。
年会費 10,000円

大倭会 郵便振替01060-6-31705

していったんです。それで、練習していったんです。「マルクス＝ロシア人、マルクス＝ロシア人」と、自分に教え込んだ。ついに特高が来た。「おい、おまえ、マルクス知つているだろう」「えっ、あのロシア人ですか。」「馬鹿だなあ、おまえ、マルクスはドイツ人だろう。そんなことも知らんのか」つて、特高警察あきれかえつて帰つていった(笑)。これが知恵なんですよ。マルクス＝ドイツ人じゃだめなんです、これは。

そういうふうな条件反射を一年の時からやつていて、「ハイハイ」つてやつたら、自分自身の思想は決して作りあげることばできません。別の条件反射をつくらなくては。そういう問題ですね。

(続く)

■第3回中国キャンパ報告

村、大学、日本人

総リダー 森 賀 成 樹

2003年、2月22日、僕たち7人（内1人は韓国人留学生）は、中国は広東省の広州市にある空港に降り立った。今回で3回目となる、ハンセン病回復者のヤンケン村でワークキャンプをするのだ。そしてもう一つ、今までになかった、中国人キャンパー募集の広報活動をする為に。

2月23日、バスをチャーターしてヤンケン村を目指した。途中、ひどくデコボコした山道を通るのだが、前回参加した僕の目に、記憶にない風景が飛び込んできた。周囲に広がるはずの緑の山々が土色をあらわにしているのだ。理由や時期はわからないが、前回キャンプから今回までの間に、ほとんど伐採されてしまったようだ。中国も日本と同じように、時が流れ、何らかの変化がある。当然のことなのだけれど。土色をあらわにした山々を眺めて、僕の知っている中国とは違う気がして少し淋しくなった。しかし、ヤンケン村に到着してその淋しさも吹き飛んだ。村人たちは、前回同様、満面の笑みを浮かべ、とても暖かく僕たち7人を迎えてくれた。ああ、ここは何も変わっていない。僕の知っている面々が声をかけ、握手を求め、手をさしのべてくれた。

この日から27日まで、計5日間ヤンケン村でのワークキャンプが始まった。今回、ワーククの内容を2つに絞って出発した。

① 前回造ったシャワー室の、剥れた床のタイルの補修。

② 厨房の外壁に備え付けてある水汲み場の、屋根の設置。

今回は、中国人キャンパー募集の広報活動を兼ねている為、ワーククの日数が少ないことを考え、この2つに決めた。①は、前回自分たちが造ったものが壊れているのだから、当然補修するべきだ、ということ、ワーククの候補の筆頭だった。②は、時間や技術の兼ね合いから選ばれた。

最終的に、ワーククは無事に終了した。しかし、大きな失敗もあった。23日に、僕を含め4人の日本人は、村の代表者である欧さんと共に、市場に食材やワーククの材料の買い出しに出かけたのだが、実は、私たち日本人には中国語を喋れる者が居らず、欧さんとの意志の疎通が満足に行えなかった。その為、言い方は悪いのだが、欧さんが勝手に②のワーククを業者に委託してしまったのだ。その事実を後に知った僕たちは、何も出来ず、頭を抱え、本来僕たちがやってこそ意義のあるワーククが、業者に委託されてしまったことを飲み込み、消化するのに苦心した。決して欧さんや業者が悪いのではない。敢えて悪者を決めるのなら、それは僕たちであり、それを統る総リダーの僕である。

同村で3回目のワーククであることと、10月に行った下見で、中国語を用いて欧さんと話したことにより、大方の意志の疎通、特に私たちのワーククのあり方は理解してもらっていると安心していらした。誤算だった。しかし、そ



ない。欧さんは本当に僕たちに協力的で、精神的に動いてくれた。欧さんも良かれと思つてことで悪気はないのだ。この失敗は二度と繰り返してはならない。その為にも、私たちの経験は、後に伝えなければならぬだろう。

僕たちは、2月28日、苦い失敗と、しかし村人の涙と笑顔を中心に焼き付けてヤンケン村を後にした。この日から3月2日までの3日間、もう一つの目的である、中国人キャンパー募集の広報活動を、3つの大学と1つの教会で行った。3つの大学とも、学内の広場の芝生の上で、それぞれの学生と僕たちで車座になって話し合った（写真）。教会では本堂とは別室の机を囲み、教会の代表者と話し合った。合計20数人と話をしたのだが、僕はこのうち5、6人が興味を示し、次回キャンプに参加してくれば良しと踏んでいた。それがどうして、ほとんどの人が興味を持ち、積極的に質問を投げかけ、次回には是非参加したいと言ってくれた。非常に意外であり、嬉しくもあった。この広報活動で蒔いた種が、次回で1つでも多くの花を咲かせてくれれば、喜びは倍増するだろう。

今回、村や大学を訪れることは、HANDAというハンセン病回復者支援組織の、ピビアンさんの協力なしではありえなかった。ピビアンさんは中国人だが、日本語も喋れる為、僕たちの活動を円滑に行えし、村や大学、教会との連絡も取ってくれた。感謝の一言につきる。また、ヤンケン村の欧さんをはじめとする村人。学生や教会の話をも熱心に聞いてくれた人々。ワークキャンプはキャンパーだけで作るものではなく、これらの人々全員で織り成されるのだと気付いた。ワークキャンプは、決して何かを造るといふ物理的な作業のみでなく、人と人の間に生まれる力が作りあげた産物なのだ。

（今年、四天王寺国際仏教大学院卒業）

こもれる魂魄の地をたずねて(十三)

アテルイモレ
阿弼流為と母礼

平成15年3月2日

杉本 順一

三月二日、林修三さんの案内で大阪府枚方市の牧野公園内にある阿弼流為さんの塚と言われる所をお訪ねしてきた。

この名前を初めて目にされた方は多いと思う。そもそも何でこんな所をお訪ねすることになったのか、その事から書いてみたい。

去年平成十四年九月末、私は九州は宇佐をお訪ねすることがあった。三泊四日の旅に疲れて伊丹空港から奈良行きのバスに乗っていた時であった。ボンヤリと夜の大阪を見ていたら「イズレノトキニカ キタヘイケ」と、法主さんの念を感じた。「うーん?何だ。今、西から帰ってきたばかりだが」と思いつつも、いずれの時にか……だから、まあ必要な時がくれば北の方面に行くことになるかと考えて、お言葉だけを心に留めておいた。それから二ヶ月位の間に、舞鶴の藤本宏秋さんが阿弼流為の劇画を持ってきてくれ、岸野春子さんから大阪阿倍野で阿弼流為のアニメを見てきたと聞く。(去年が阿弼流為さんが処刑されてから千二百年だったと、後で知るのだが)

■駄洒落、人をうごかす?

気楽とんぼの私はすっかり阿弼流為さんのことも忘れていた。今年の二月六日、大倭神宮の月次祭に車で行った時、神宮の周りはすでに駐車する所がなかったため、鶏の峰近くに車を止めて坂を降りて行った。祭典の後、高橋良美さんに「今日は、車は坂の上のタムラマロや」と駄洒落を言い

ながら、その連想から高橋さんに「阿弼流為さんの塚へ行つたことがありますか」と私が言うところ、「行きたいと思つてますが、まだです」とのこと。じゃあ、いつか行かれる時は一緒に乗せていつて下さいと声を掛けておいた。

それから数日、あつという間に、三月二日に十二人の参加者で行くことになったらしい。若い人には「寒っ!」と言われそうな駄洒落から、今回の枚方行きが決まった。

阿弼流為さんとはどんな人か、知らなくては失礼に当たると本気で調べてみることにした。インターネットにも知恵を借りると、阿弼流為の名は、『続日本紀』『類聚国史』『日本紀略』などに出ているらしい。

奈良時代から平安時代にかけて頃、朝廷は現在の岩手県胆沢地方を本拠とするエミシに対して何度も征討軍を送つたが、大軍勢に対してもエミシ方の抵抗は強力であった。そこは「日高見」の国と呼ばれる豊かで独自の文化を持つ国であった。

桓武天皇によって征夷大將軍に坂上田村麻呂が任命された時、ついにエミシ方の総帥の阿弼流為と盟友である母礼が、五百人の兵達と共に投降したと言う。全員が死ぬつもりなら投降はしない訳で、阿弼流為、母礼が一族のこれらを思つてとつた行動だったのであるうか。

田村麻呂と共に、彼等は京に行くが、拘引されたようではなかったらしい。田村麻呂は武力一点張りではなく、仁愛をもって帰順を促すというやり方で、朝廷に対し「二人を希望どおり帰郷させ

同類が服従するよう指導させる方がよい」と願う。しかし、二人の実力を恐れた公卿たちによって「朝威によって獲たこの梟帥(※蛮族の大將)を、奥地に放し還すのは、虎を養うようなもので、患を遺すことになる」と、「河内国杜山」で二人を斬つたと伝えられる。エミシの人々は「帰順したのに……やつぱりそうか」と不信感を濃くしたにちがいない。

二月二十六日、阿弼流為さんは「ウツシヨノカタチ ノゾミマセヌ ウツシヨノミナサンガ キテイタダケルコト コノウエナイヨロコビデス」と言う。

二十七日、母礼さんは「モレハ ココニ タカマノハラノミチ オマチモウス」「ステニ ワレラノマチタルトコロワ キマリタリ」と言う。待ちたる所とはどこか?

三月二日、前夜の大雨がうそのような晴天になった。車二台で、出発。まず訪ねたのは、牧野公園の中心にある塚のような場所、現在この辺りが河内国杜山に当たるといふ。

感じるままに、この所で慰霊の挨拶をした。強い怨念があるかもしれないと思う、私の雑念は見事にはずれた。阿弼流為さんは、ひたすら「ワガフルサトノ ミタマタチヲ ユルシタマエ」と繰り返しておられた。故郷で怨念を持ったまま一生を終えた幾多の人達への深い思いが伝わってきた。隣りにうずたかいゴミ、廃品が捨てられている。ここが母礼さんの塚の辺りらしい。心苦しい思いを残して邑にもどった。

拜殿で挨拶をしていると、阿弼流為さんは「必ず故郷に連れて帰ってほしい」と強い念を送つてこられた。私は「いずれの時に北へ行く」ことを約束しておいた。

「隆家」の頃の法主
兄と犬
矢追 隆義

僕の兄への記憶の始まりは、兄が日新商業での学友であった岸田・辰巳両氏と藤之木の四ツ辻にある御地藏さんの前で待ち合わせ、三人仲良く通学していた頃からである。

ある日、兄が一匹の白黒の子犬を持ち帰ってきた。下校時、富雄川の堤防に捨てられていたらしく、「クンクン」とあまり兄を見つめて鳴くので可哀想になり、とのことであった。早速犬小屋を作り、その日から僕も弟も、兄と共に世話をすることになるが、特に兄はこの子犬を自分の着物のふところへ入れるほど可愛がっていた。犬は「蓮」と名付けられ、僕等は「れんこう」と呼んでいた。

休日には兄は自転車に乗り、犬を鎖でつなぎ、運動に向いていた。ある運動日、たまたま鎖が見当たらず、長い布紐で代用して、いつものコースである白砂川の堤防を愛犬と伴走していた。何があったのか、急に犬が逆戻りし、紐が車輪に巻き付いた。兄は自転車もろとも下の川へ転落、ハンドルの右下のブレーキの金具で、顎下の喉を突いた。血潮で真っ赤になった手で傷口を押さえながら家へ帰って来たけれども血が止まらず、父がリヤカーに兄を乗せ、手押しで郡山の上田病院へ向かった時の様子は、未だにはつきりと記憶に残っている。

幸い傷は急所をはずれ、経過も良好で全治することになるが、兄の右顎下には一銭銅貨位の傷跡が残っていた。それでも兄は蓮を可愛がり続け、それ以来矢追家には犬を絶やしたことがない。何代目かの柴犬に、兄の長女の輪孺美ちゃんが肩を噛まれるという悲しい出来事もあった。

法主日聖師の奥津城造成への
ご協力をお願い

日座名(部)変更 郵便振替口座開設について
大倭会会長 中西正和

今年1月号で皆様にお願ひ致しましたところ、早速のご協力を頂きありがとうございます。

さて皆様からのご助言・ご要望により、募金の振込み先を下記のように変更・追加致しました。大倭大本宮では平成18年の十年祭を目標に計画をすすめておられます。何卒各人の分に応じ、ご協力のほどを重ねてお願い申し上げます。平成15年4月吉日

記

1. 奈良信用金庫 学園前支店 普通0302639

□座名 大本宮特別整備基金
中西正和 (名前のみ変更)

2. 郵便振替口座 00900-6-241836

□座名 大倭奉賛会

ヒト
靈人の心の闇と光

林 修 三

浅田次朗著の『壬生義士伝』を読む。読みながら、恥ずかしながら慟哭する。夜、眠りにつけば思わず意味不明の声をあげている。初めての経験である。物語のあらずじを語るスペースはここに

はないが、人の「情」や「義」ということにナマで向き合った気分である。そこには思想もイデオロギーもない、極限状態を生きる人間の裸の心が問われているのみであった。

人の念いとは、何なのだろう？
長曽根一族の念いが、日本史を作

りあげる大きな起動力となっていると法主は言われた。遠くは源平の争いに、近くは満州事変から続く世界大戦にと。心が身体に寄りそうごとく、霊の世界は現界と共にあると。過去の歴史の中に埋もれ、身体を失くした靈魂の群れは、側近く、現界にある私達の心に作用し続けるのだと。しかし又、私達の心の世界も、それら霊達の心に響き渡るのだとも。

現界のこの何気ない日々には、人それぞれに繰り広げられる日常生活の内に、悩み、怒り、笑う、この心が、それら霊達を救い、あるいはおとしめるのだと。金銭欲や権勢欲から逃れ、劣等感も優越感も通れ越し、一人の靈人として自立した時、それは己を超えて、大きくこの世界を鎮めるのだと。

確かにこの世は怨念に包まれている。光あるところ闇があるように、大倭神宮の力強い光は、又、多くの闇を秘めている。

ある日、自分自身の心の中を見る。あこがれのように希い求める光の世界は、己自身の深い闇をも垣間見せてくれる。又、ある日、地上を歩めば、そこかしこ歴史の闇の向こうから、人々のさんざめくつぶやきが聞こえてくる。闇と光。二つで一つの力ミの計らいは、遠く謎のように私に問いかけてくる。

「だまことだま」 (平成15年2月15日)

長野県小県郡東部町 小林 俊三

『おおよまと』1月号の「幸福は自分の魂の中に」をも大変興味深く拝読しました。

題名が素晴らしい「言霊」に感じました。このことだまを本当に理解し、実感する事が出来れば、オウム教のような宗教の弊害がなくなり、古代より人類が求め続けてきた宗教真理による「救い」が成就されるかもしれないとも思いました。

あじさい日誌

3月12日 長崎大学名誉教授の五十嵐章・輪儒美（法主長女）さん夫妻が九州から奈良市千代ヶ丘に戻って来られました。

佐渡の大滝哲也さん（☎0259・55・3826）から自分の曲のCDが完成したと、邑の関係者に送られてきました。
3月15日 大倭神宮月次祭。雨のため社務所で祭典。
3月16日 大倭会館で「あじさいの箱」は、第20回懇親会を行い、会員のケアマネジャー、安達直美さんを囲んで「在宅介護について」聞いたり、また施設交流で一日を過ごしました。

杉本順一さん一家3人は、大雨の中、桜井市の女奇峠を訪ねたそうです。『日本書紀』神武天皇紀に女軍が集まったとある所とか。
3月18日 大倭殖産の有川吉則さん・原田澄生さん等が（有）ワケンシステムとして独立。事務所は宿禰館の所。紫陽花邑の新しい花びらです。

3月22日 熊本県蘇陽町の幣立神社近くの楠林衛さん一家3人が来邑、1泊されました。
3月23日 大倭大本宮月次祭。平成7年3月23日の法話テープを聞かせてもらいました。（同年4月号で掲載「心の垢を落として喜びの世界へ」）

午後4時から大倭会館で大倭会幹事会。会計報告や今年度の予定が検討されました。
3月27日 ウグイスの初音。それきり今年はまだ鳴き声を聞かれません。昇ちゃん是一段とにぎやか。やつぱり春、さえずっているんでしょうねえ。

3月30日 拝殿で紫鳳会主催の第三絃演奏会。この日のために特訓をして湯浅芳郎さんがお茶をたてたり、盛会でした。
3月31日 大倭病院事務長の山岡廣子さんが退職されました。

4月1日 大倭殖産（株）に宇陀教晴さんが入社しました。
4月2日 11月の大倭会文化講演会で尺八演奏してもらったことが決まった石川利光さん夫妻が下見のため来邑されました。
4月4・5・6日 菅原園職員・邑人の岩永一彦さん一家来邑。

4月6日 大倭神宮月次祭。桜も満開の日曜日、大勢の人が参拝しました。
4月7日 大阪のオオハラユミコさんという方が来邑。アテルイやモレについて研究している内にニギハヤヒノミコト、ナガソネヒコに至り、矢田神社で大倭を紹介されたそうです。
4月8日 午前11時から須佐緒祭が行われ、そのあと拝殿庇で園遊会。花曇、雨、風、雷鳴、夕日と変化のある桜を見せてもらいながら歓談。

4月10日 午前10時から大倭会館であじさいの箱主催「EM講習会」がNPO地球環境・共生ネットワークの後藤和子さん等を講師にして行われました。

卒業・入学
大学卒業は須川定徳さん（京都で就職）、杉本朝順さん（東京で就職）、須川弥由基さん（大阪で就職）。
高校入学は中島木綿貴さん。中学入学は中島知佐登さん、我原将大さん。小学校、新1年生は矢追知奈都ちゃんです。



大倭安宿死では
3月19日 大倭墓地の大倭安宿苑邑人慰霊碑前で慰霊祭。
3月31日 今年は3名の方が定年退職されました。
4月1日 辞令交付式がありました。新採用者は14名の皆さん。主な異動では、菅原園の須川映治園長が都合で退職され、後任は宮田幸則さんです。

退職・異動の6名の
3月31日 退職・異動の6名の職員と送別会を行いました。
4月1日 新園長のもと、この日から障害者福祉が措置制度から支援費制度に変わります。

（須加宮寮）
3月27日 今年度の作業活動を慰労して作業納め会。来年の抱負も聞きました。

あんない

*月次祭（大倭神宮）
5月6日（火） 午後2時より大倭神宮にて。
*大倭会主催第四一回祝会
5月11日（日） 午後2時より大倭大本宮拝殿において。
*月次祭（大倭神宮）
5月15日（木） 午後2時より大倭神宮にて。

*月次祭（大倭大本宮）
5月23日（金） 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

（長曾根寮）
3月15日 家族会主催のお楽しみ会。男声合唱団「なにわ」の力強い合唱が好評でした。
（八重垣園）
3月21日 地域交流会で、家族、地元自治会長、長曾根寮利用者、ボランティアの方々を招きパーティを行いました。
3月26日 俳句の会。「母偲び彼岸、だんごは手づくりで」

編集後記

▼人はいつ頃から戦争というものを始めたのでしょうか？ 戦争の根本原因は何なのでしょう？ 反戦運動の中にも、時々、戦争と同じ性質の荒ぶる気を感じるのには気のせいでしょうか。そんなことを考えながら、まずは自分自身、そして家庭の中から日々精進だなあ、と思う今日この頃です。（鶴）

第274回 大倭会文化行事

つばきわおしんじや 椿大神社と御在所岳

春の日帰りバス旅行です。伊勢国一の宮である椿大神社（祭神は猿田彦大神）と、御在所岳でのロープウェイ遊覧と散策を楽しむ。シロヤシオの花が見頃。

日時 平成15年5月18日（日）
8：20集合 / 8：30出発
場所 奈良国際ゴルフ場前
（ルート途中参加は連絡下さい）
ルート 奈良大倭…椿大神社（昼食）…御在所岳…奈良大倭（17：30頃）
参加費 4,000円（ロープウェイ代1,800円を含む）
申込み 5/10までに湯浅へ☎0742-48-3389
定員があるため申込み順にします。
※弁当持参・雨天決行